

学校概要

創立 38 周年	学校長 山口 昭代	副校長 粟飯原 桂子	学期 2 学期制	児童・生徒数 336 人
学級数 一般級: 12 個別支援級: 2		主な関係校: すずき野中学校 すずき野小学校		

学校教育目標

「夢をえがこう 自分をえがこう 嶮山あったかハーモニー」

【知】自ら学び、しっかり考える子を育てます。 【徳】思いやりある子を育てます。 【体】たくましい子を育てます。

【公】まちとともに生きる子を育てます。 【開】夢をもち、チャレンジする子を育てます。

学校の特徴

○穏やかで素直な気持ちの児童が多く、落ち着いてのびのびと学校生活を送っている。協力的で温かい雰囲気。保護者が多い。
 ○地域と学校地域コーディネーターによる支援会「フレンド君の会」がしっかりと構築されていて、多大な協力をいただいている。
 ○すずき野・嶮山ネット三校の学校運営協議会を通して、学校改善へ向けた取組を連携のなかで推進できる。
 ○外遊び実践・縄跳び集会・マラソン大会を中心とした体力向上と28年度「神奈川県最もよい歯の学校」「全日本学校歯科保健優良校奨励賞」「横浜市学校保健優良校」受賞、29年度・30年度「歯と口の健康づくり推進校」等を励みに、健康教育の推進を柱とする。

学校経営中期取組目標

○児童が「夢をえがき」「自分をえがく」ことの実現のために、児童、保護者、地域、関係の方々から信頼されるあたたかい学校づくりを目指します。
 ・「歯と口の健康づくり」「食育」を推進し、自分の健康を自分自身でつくり出し、保持しようとする力をもった子どもを育てます。
 ・すずき野・嶮山ネット、8校小中一貫教育推進ブロック、地域との連携を通して、「まち」や「まちの大人」に育まれ、「まち」に愛着をもつ子どもを育てます。
 ・教職員の授業力、指導力の向上のために充実した授業研究や児童理解研修、不祥事防止研修、メンター研修「嶮山塾」を活性化させ、ともに向上しようとするチームワークに富んだ職員集団を育てます。
 ・様々なゲストティーチャーとの出会いから、子ども自身が大人の専門性や人物そのものへの憧れを感じられるように創意工夫します。

小中一貫教育の取組

すずき野中・あざみ野中	ブロック	: すずき野中・あざみ野中・すずき野小・荏子田小・黒須田小・あざみ野第一小・あざみ野第二小・嶮山小
9年間で育てる子ども像	人とのつながりを大切にできる子～地域を愛し、あいさつできる子～	
自校の具体的取組	○小中学校間で学習指導や生活指導の円滑な接続を大切にするとともに、小中教職員の交流を図り、子どもたちに必要な資質、能力を育てていきます。 ○進んであいさつのできる子どもになるように、教職員が率先して手本となる行動を行い、そのよさを示していきます。 ○PTA主催行事や地域行事に積極的に参加し、様々な「まち」の方々との交流を増やしたり深めたりしていきます。	

重点取組分野	取組目標	具体的取組
確かな学力	・理科の重点研究への取組や道徳授業を丁寧に行い、授業力の向上を目指します。 ・スキルタイムを週に三回設定し、基礎基本の定着と習熟を図ります。	・重点研究初年度となる理科の授業改善を協働で進め、子どもたちにとって「わかる、楽しい授業」と、問題解決力の向上を目指します。道徳の授業改善にも努めていきます。 ・スキルタイムの内容の充実と国語の宿題(家庭学習)の実践を継続し、基礎基本の定着及び活用を視野に、読書活動充実に向けても学校司書と協働し学力の向上を目指します。
豊かな心	・あらゆる教育活動を通して人権意識を高め思いやりある子どもを育てます。 ・YPアセスメントを進め、子どもたちのよりよい人間関係づくりを支援します。	・日常的に、あらゆる場面を通じて人権教育を進め、思いやりをもった、友達にあたたかい子どもたちを育てます。 ・YP研修等を通して、子どもたちのよりよい人間関係づくりの参考とします。 ・キッズ活動(全校遠足、交歓給食、運動会等)や個別支援級との交流を通して相手を理解し、認めることのできる子どもを育てます。
健やかな体	・体力向上のためのプログラムを実践していきます。 ・「歯と口の健康づくり年間計画」に基づいて健やかな体を育てます。	・外遊びの促進や体力向上のプログラム(なわとび集会、マラソン大会)を充実させ、運動好きで、運動に親しむ子どもを育てます。 ・「歯と口の健康づくり計画」「食育推進計画」を子どもと保護者に情報発信し、嶮山スタイルの確立と保護者との協働で健康教育を積極的に進めます。(H29・30「歯と口の健康づくり推進校」)
教育課程	・本校の教育課程を全職員で共通理解し、『学年暦』の修正に取り組みます。 ・学習指導要領の改訂を視野に正しい情報の収集と、編成準備を進めます。	・本校教育課程を学年毎に点検し、学年の系統性とともに、児童の実態や季節にあった『学年暦』を修正、作成していくことで、教員の授業力の向上にもつなげていきます。 ・教職員のキャリアステージに合わせた研修の充実とメンター研修「嶮山塾」や教育実習生のための示範授業の実施などに組織的に対応することで、指導力の向上を目指します。
児童生徒指導	・学校のまき「嶮山スタンダード」に基づき基本的な生活習慣の確立に取り組みます。 ・「いじめ防止基本方針」を共通理解し、職員一丸となって強い気持ちで指導します。	・「嶮山スタンダード」を全教職員が理解し、一貫した指導を行うとともに、保護者配布し、共通理解と家庭での協力を依頼し、連携を充実させて望ましい生活習慣と人間関係の確立を目指します。 ・「いじめの未然防止」を徹底し、児童支援専任への初期段階での報告や相談を通して、組織として児童指導を行っていることで子どもの安心と安全を守っていきます。
地域連携	・本校の教育活動を広く保護者、地域に公開する機会をもち、理解を深めていただくとともに、参加、交流によってまちの人々とのかかわりを大切に子どもを育てます。	・「このまち」で育つ子どもを、様々な交流を通して地域の方々に見守り、支えていただけるように地域への公開授業や学校行事、また地域行事への参加や交流を活発に行えるよう地域連携に努めます。 ・「フレンドくんの会」の協力を得て、子どもの学びの質の向上を目指します。
いじめへの対応	・いじめはどの子どもにも、どの学級にも起こりうるという認識を教職員がもち、日頃からの保護者との信頼関係、連携力を土台にあたたかい学級づくりに努めます。	・特別活動、道徳授業を核とした日々の授業と教育活動を「だれもが」「安心して」「豊かに」の視点から教職員が常に自己点検していく組織づくりを推進します。 ・いじめの定義の理解や児童の実態を、保護者や地域、学校運営協議会、八校ブロック小中協議会等で進んで取り上げ、多くのまなざしを通して子どもたちを包みこみ、健全育成していく学校づくりを進めます。

人材育成・組織運営	・重点研究や様々な研修の機会を通じ、個々の力量、及びチーム力の向上を図られている。 ・部会議、連絡調整会議、職員会議等が機能し、機動力のある組織的な学校運営に近づいている。	①7回の重点授業研究会や8校ブロック内授業、メンター「嶮山塾」授業研究会、教育実習生示範授業、区や市の授業研究会を有効に活用する。 ②様々な教育課題に関する研修を計画的に実施していく。 ③会議の内容を精選し、時間を決めた効率的な開催を行い、教職員に「子どもとしっかり向き合う時間」を確保していく。
担当	研究部・児童指導部	